

2026年度より開始される 慈恵医大の広域連携型プログラムとは

広域連携型プログラム（定員3名）

- 2年目の研修期間のうち6ヶ月間、医師少数県の病院で研修を行う
- 都市部の「高度医療機関（慈恵）」と「地域の第一線医療現場」という、特性の異なる環境における研修を通じて、実践的な診療能力を養うことができる
- 研修期間中は原則、給与を含め派遣先病院の職員待遇
- 派遣先病院は、「新潟県」、「福島県」を予定しており、いずれの病院も慈恵の関連病院であり、指導実績も豊富

広域連携型プログラムと一般プログラムの違い

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一般 プログラム	1年目	内科①		内科②		救急			外科		麻酔	選択 2ヶ月	
	2年目	内科③		精神	小児	産婦	地域		選択 5ヶ月				
広域連携型 プログラム	1年目	内科①		内科②		救急			外科		麻酔	選択 2ヶ月	
	2年目	内科③		地域医療 研修	選択①	選択②	選択③	精神	小児	産婦	選択 3ヶ月		

実質、一般プログラムより選択科目を**1ヶ月多く履修**することができる
 ※広域連携型プログラムでの選択科①～③については、連携先病院と
 研修医と調整の上、決定する

広域連携型プログラムの特徴

- 豊富なCommon Diseaseの経験
 - 診療手技経験の充実
 - 自己主導的で裁量権のある診療経験
- 大学病院での研修のデメリットが補完される

広域連携型プログラムに向いている人

- ☐ 大学病院の研修がしたいが、**より多くの手技や症例を経験したい**
- ☐ 先進医療から地域医療までより**実践的な診療能力を養いたい**
- ☐ **裁量権のある診療**を行いたい
- ☐ 研修期間中は原則、給与が派遣先職員待遇のため、**少しでも多く収入を得たい**
- ☐ オフには、**地域ならではの体験（観光等）**を楽しみたい（原則土日休みのため計画しやすい）